

2013年度の鉄鋼需要の動向について

2012年12月18日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

2013年度の日本経済は緩やかな回復に向かう見通し

- 2012年度の日本経済は、下期にかけ弱含みで推移している。建設投資は増加しているが、輸出や鉱工業生産が停滞するなか、機械受注等の設備投資関連指標にも弱い動きがみられ、堅調だった個人消費はエコカー補助金終了、景況感悪化等の影響も窺われる。
- 2013年度は、内需が底堅く推移するなか、海外経済の持ち直しに伴い緩やかな回復軌道を辿るとみられ、住宅等で消費税増税前の駆け込みの動きも想定される。

2013年度の粗鋼生産は前年度水準を若干下回る見通し

- 2012年度は、エコカー補助金など政策効果による民間需要の回復、復興に係る公共投資の増加等から、上期の鉄鋼国内需要は回復軌道を辿ったが、下期は、政策効果の終了や外需減少に加え、中国向け製造業輸出の減少もあり製造業の生産活動が停滞し、鉄鋼需要は製造業向けを中心に停滞感が強まっている。2012年度の粗鋼生産は、上期が堅調であったこともあり、前年度並みの1億600～700万トン程度を維持する見込み。
- 2013年度の国内鉄鋼需要は、消費税増税前の駆け込み需要や設備投資の回復等から建設分野は増大が見込まれるものの、製造業分野では造船向けの減少に加え、海外生産シフト等によって自動車・産業機械・電気機械向けも力強い回復には至らず、全体では前年度比微減程度に止まると予想される。
- 海外鉄鋼市場は、拡大テンポは鈍化したものの東南アジアを中心として鉄鋼需要は比較的堅調に推移している。しかしながら、中国・韓国における大幅な鉄鋼生産能力増強の影響を受け、アジアの鉄鋼需給は大幅に緩和している。こうしたなか、2013年度も競合激化は避けられず、鉄鋼輸出が前年度を若干下回る一方、輸入は高い水準が継続するとみられる。
- この結果、2013年度の粗鋼生産は、海外経済の持ち直し動向等が大きな変動要因とみられるが、前年度水準を若干下回る見通し。

以 上

